

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- “強い河南”“優しく、華やぐ河南”のスローガンのもと、学習・部活動・行事、すべてに全力で取り組み、生徒一人ひとりが躍動する学校
- 21世紀の社会を力強く生き抜くために、将来に向けた高い目標を掲げ挑戦する、「強さ」と「優しさ」を併せ持つ「幹」の太い生徒の育成
 - 提案型教員集団を形成し、全教職員一丸となって、地域の“強い”普通科高校としての魅力を、さらに発展させる
 - 保護者・地域との連携を密にし、求められる教育活動を展開することにより、地域に愛され信頼される学校づくりに取り組む

2 中期的目標

- 「幹」の太い生徒の育成
「幹」＝人間力（規範意識、自立心、学力、自尊感情、挨拶、思いやり、コミュニケーション力、問題解決力、洞察力）
 - 分掌・学年・委員会が連携し、学習・部活動・行事、すべての教育活動を通して人間力を育成する。
 - 規律正しい生活の下、高い規範意識を持ち、自らの意思で判断し行動できる生徒を育成する。
 - 人権教育を推進し、多様性を尊重し、いじめ・差別をしない、させない意識を醸成し、安全・安心な学校づくりに取り組む。
 - 多様な講演会や説明会・体験活動・高大連携授業等の教育活動を通して、自らの将来を主体的に考え、目標に向かって挑戦する力を育成する。
 - 学校行事や部活動等、校内外の教育活動に、積極的・主体的に取り組む生徒を育成する。
 - 運動系・文化系とも、部活動による対外試合・公演、中学生との交流や地域での活動を通して、主体性やリーダーシップを育む。
 - 地域の人材・施設を積極的に活用し、幼稚園・小学校・中学校・大学との連携を活発に行うことにより、生徒の自己有用感や進路実現への意識向上を図る。
 - 中高交流や学校説明会への在校生の積極的な参加を促進し、学校の魅力を発信するとともに、河南高校生としての「誇り」を持たせる。
※生徒向け学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」(R2:87%、R3:86%、R4:85%)、「学校生活に満足している」(R2:83%、R3:84%、R4:84%)の項目をどちらも令和7年度には90%をめざす。また、「部活動に積極的に参加」の項目は、令和7年度100%(R2:97%、R3:96%、R4:94%)をめざす。
- 希望の進路を実現する確かな学力の育成
 - 「主体的・対話的で深い学び」を実現することにより学習意欲の向上を図る、授業改革・授業改善
 - 新学習指導要領及び大学入試改革に対応した新しい教育課程への移行をスムーズに行い、かつ生徒の希望進路実現を叶える授業を展開する。研究授業等を積極的に行い、授業アンケート・学校教育自己診断等の分析を踏まえ、組織的に授業力の向上を図る。
 - 授業改善・授業力向上の取組みを継承するとともに、ICT機器及び様々な教育ツールと1人1台端末の活用による授業の工夫に努め、さらに質の高い授業をめざす。
※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」(R2:76%、R3:77%、R4:81%)「教え方の工夫」(R2:86%、R3:88%、R4:87%)の項目を令和7年度にはどちらも90%をめざす。
 - 希望の進路を実現するための学力の育成
 - 授業規律と学習習慣を向上させ、授業への集中力を高めるとともに、学習に向かう意識をさらに向上させる。
 - 習熟度別・進路別少人数授業を行い、きめ細かな授業を展開する。
 - 実用英語検定資格の取得に挑戦することにより、進路実現に結びつく英語力及びグローバル社会に対応した英語の基礎力を養成する。
 - 生徒の生活習慣や学力の現状を把握し、講習や補習等の教育活動や、自学自習のための環境整備を組織的、計画的に実施する。
 - eコース(esperanza:希望、education:教育)の取組みを継承し、充実した学習内容を提供し、生徒の希望進路を実現する。
※国公立大学合格10名程度(R2:7名、R3:5名、R4:8名)、関西難関私立大学合格70名以上(R2:55名、R3:62名、R4:47名)を維持する。
- 安全で安心な学校生活のための生徒支援等の充実
 - 教育相談体制を充実させ、関係機関等との連携を深め、支援の必要な生徒に適切に対応する。
 - 課題を抱える生徒の支援のために、支援委員会と学年、関係機関等との連携を深め、組織的な対応を促進する。
※生徒向け学校教育自己診断の「担任の先生以外にも悩みを聞いてくれたり相談に応じてくれたりする先生がいる」(R2:60%、R3:57%、R4:60%)の項目を令和7年度には70%以上をめざす。※R3から「担任の先生以外にも」の項目を追加。
 - 防災マニュアルを徹底するとともに、安全で安心な校内環境の整備に努め、災害に強い学校づくりに取り組む。
※生徒向け学校教育自己診断における「災害時の行動を具体的に知らされている」(R2:73%、R3:87%、R4:93%)の項目を令和7年度には100%をめざす。
- 提案型教員集団としての学校力のさらなる向上と働き方改革の推進
 - 新学習指導要領及び大学入試改革について引き続き研究し、効果的な指導実践につなげることで、教職員の自己評価の高揚と専門性の向上を図る。
 - 人権研修をはじめとした効果的・効率的な研修を実施することで、学校運営への質の高い提案を可能にし、地域の普通科特色校としての魅力を高める。
 - 個人の力を結集して組織力を高めることで、校務の効率化・平準化を図り時間外勤務時間の縮減に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>(1) 今年度は、新型コロナウイルス感染も5類となり、通常の学校生活ができるようになった。学校行事も昨年と同様に予定通り行うことができた。保護者アンケートの「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。」は昨年からはほぼ横ばいの(92%)、生徒アンケートの「学校へ行くのが楽しい。」は(89%)と昨年より上昇し、昨年と同様に生徒たちが学校で前向きに頑張っている様子が見て取れた。また、生徒アンケートについては、多くの項目で肯定的評価が90%に近づくなど、良い結果が得られた。</p> <p>教職員のアンケートにおいては、多くの項目で低下がみられた。新しいカリキュラムになり、評価の方法も大きく変わり、観点別学習状</p>	<p>第1回 令和5年5月22日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務時間外(午前8時30分～午後5時以外の時間)の電話受付の中止に関連して情報交換を行い、PTA等でも検討していくこととした。 河南高校は、部活動に90%以上の生徒が参加しており、盛んな部活動が河南高校を創っていることを再確認した。 中学校の部活動の現状について、情報共有した。 学習塾にも広報活動を広めてはの提案があり、検討していくこととした。 <p>第2回 令和5年12月20日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報活動について、塾の訪問等とても丁寧な活動をされているとの意見をいただいた。 また、HPへの情報提供やSNSの利用など情報ツールを使って河南高校をアピールすればとの意見をいただいた。

府立河南高等学校

<p>況の評価への対応のために個々の教員が時間を割かれたと考えられる。教職員が生き生きと業務を遂行できるように、業務改善をはじめ、雰囲気の良い職場づくりをしていかなければならない。</p> <p>(2) 生徒の授業に関する項目については、「全体的に授業はわかりやすい。」(83%)、「先生の教え方には、さまざまな工夫がなされている。」(89%)の肯定的評価の良い結果が得られた。授業力向上PTの活動がさまざまな成果として着実に実を結んだものと考えられる。</p> <p>次年度は、さらに授業改善を進め、少しでも生徒たちが前向きに授業に取り組めるように工夫・改善を行っていくことが、授業だけではなく学校全体の評価の底上げにつながっていくと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の始業をもう少し遅らせることができないかとの意見をいただいた。遠方から通学する生徒も通学しやすくなるため、ぜひ考えていただきたい。 ・南河内のような所ほど、地域に公立高校がなくなれば、子どもたちに大きな影響が出てしまうとの意見をいただいた。来年度の定員が増えたことで、今まで河南高校をあきらめていた子どもたちの励みになるので頑張ってほしいとの意見もいただいた。 <p>第3回 令和6年3月26日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度学校経営計画及び学校評価結果については概ね良い結果が得られた。令和6年度学校経営計画及び学校評価についても承認された。 ・地域の人口減少に加えて私学無償化の影響もあったが、入学者選抜の結果からは、河南高校は、学習活動・部活動の文武両道の特色ある高校として、際立っていることが証明された。 ・私立高校の入試結果が早く決まる。私学は、設備などのハード面で優位であるが、公立は、内容で優っている。PTAも含めて、もっとアピールしていかなければならない。 ・生徒たちが楽しい学校である河南高校を伸ばして行ってほしい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 幹の太い生徒の育成	(1) 人間力の育成 ア 規律正しい生活、高い規範意識	(1) ア・生活指導部は生徒自治会とも連携し、挨拶の励行、遅刻の減少に引き続き努める。	(1) ア・遅刻数、900件以下を維持する。 [1026件]	(1) ア・遅刻数は、2558件で、新型コロナ下から抜け切れておらず、大幅に増加した、引続き丁寧な指導に取り組む。(△)
	イ 人権教育の推進	イ・3年間の人権教育計画を作成し、生徒の人権学習を充実させることにより、学校全体の人権意識の向上を図る。 ・いじめの未然予防、早期発見に努め、組織全体で対応する。	イ・生徒の「人権について学ぶ機会がある」の項目90%以上を維持する。 [93%] ・「先生はいじめについて困ったことがあれば真剣に対応してくれる」85%以上を維持する。[88%]	イ・生徒の「人権について学ぶ機会がある」は、講演会の効果で97%となり、85%以上を維持した。(○) ・「先生はいじめについて困ったことがあれば真剣に対応してくれる」は、91%となり、85%以上を維持した。(○)
	ウ キャリア教育の充実	ウ・講演会や説明会を通して生徒が卒業後の進路について考えるキャリア教育の取組みを充実させる。	ウ・「将来の生き方について考える機会がある」90%を維持する。[93%]	ウ・「将来の生き方について考える機会がある」は、92%となり、90%を維持した。(○)
	(2) 課外活動の充実 ア 部活動の推進	(2) ア・学校行事や部活動への生徒の積極的な参加を、学校を挙げて推進する。	(2) ア・「部活動に積極的に参加している」90%以上を維持する。[94%] 「学校行事は楽しく、充実している」90%以上を維持する。[93%]	(2) ア・「部活動に積極的に参加している」は95%で、90%以上を維持した。加入率90%以上も維持していく。(○) 「学校行事は楽しく、充実している」は93%で、90%以上を維持した。(○)
	イ 地域及び他校種連携の充実	イ・部活動での中高交流において、生徒主体の地域連携を強化する。 ・地域の取組みや校種を超えた連携を体験する。	イ・部活動での中高交流を維持し、夏季休業中の「クラブ体験」「部活Cup」も含め5回以上実施する。	イ・部活動での中高交流を維持し、夏季休業中の「クラブ体験」「部活Cup」も含め8回以上実施した。(○)
	ウ 生徒参加の学校魅力発信	ウ・参加者に河南高校の強みや魅力が伝わるような学校説明会・体験会の実施や、ホームページのさらなる改善を図る。	ウ・学校説明会への参加者数800名程度を維持し、満足度も約90%以上を維持する。[約900名、90%] ホームページの年間閲覧数10万回以上を維持する。	ウ・学校説明会への参加者数は約745名で、満足度は90%を超えた。(○) ホームページの年間閲覧数は9万6千回であった。(△)
	(1) 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践 ア 新学習指導要領と大学入試改革に対応した授業改善	(1) ア・新学習指導要領・大学入試改革を踏まえ、教員プロジェクトチームによる授業研究・授業力向上の取組みを継続する。	(1) ア・教員の「教育活動について教職員で日常的に共有し合っている」を85%以上に向上させる。[81%]	(1) ア・教員の「教育活動について教職員で日常的に共有し合っている」は77%に低下した。観点別学習状況の評価への対応に時間を割いたためと考えられる。(△)

府立河南高等学校

	<p>イ ICT等ツールの活用による授業の工夫</p> <p>(2) 希望進路の実現</p> <p>ア 授業規律と学習習慣の向上</p> <p>イ 生徒のニーズを踏まえた授業展開の継続</p> <p>ウ 実用英語検定資格の取得</p> <p>エ 組織的・計画的な講習・補習・自習の取り組み</p> <p>オ eコース取組みを継承・推進する。</p>	<p>イ・1人1台端末の活用の幅を広げ、生徒の興味、関心をさらに引き出す授業を展開する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・授業規律及び予習・復習、自学自習の重要性の認識を深める。</p> <p>イ・数学(2年生)と英語(1年生)において、少人数展開授業を実施し、苦手意識のある生徒の減少、得意生徒の学力向上を図る。</p> <p>ウ・1、2年生の間に全員が英語検定を計画的に受験し、準2級以上の取得をめざす。</p> <p>エ・授業及び学年通信や集会などの機会を通じ、自学自習の意識の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業外での学習時間が確保できる部活動の在り方に各顧問が取り組む。 生徒の学力推移・進路希望等の情報を学年、教科、分掌間で共有するとともに、進路指導に係る教員研修を実施し、生徒の希望進路に応じた学習内容、講習等を組織的・計画的に行う。 保護者への進路情報の提供に、さらに努めることで、進路指導の連携を強化する。 <p>オ・eコースにおける体験学習・高大連携・発展学習を充実させ、進学意識の向上を図る。</p>	<p>イ・生徒の「先生の教え方には様々な工夫がなされている」[87%]「授業はわかりやすい」[81%]の項目について各々80%以上を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「1人1台端末を効果的に活用している」を80%以上に向上させる。[76%] <p>(2)</p> <p>ア・授業アンケートの「予習や復習ができてきている」平均値3.0以上を維持する。[3.18]</p> <p>イ・生徒の少人数展開授業に対するアンケートにおける肯定度80%以上をめざす。 [英語94.1%、数学75.4%]</p> <p>ウ・英検準2級以上の合格者100名以上をめざす。[R2:124名、R3:60名、R4:221名]</p> <p>エ・進路指導に係る教員研修の実施を、各分野で1回以上実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> R4年度の進学実績(国公立大学現役合格8名、関西難関私立大学現役合格47名)を上昇させる。 卒業生アンケートによる進路実現の満足度80%以上を維持する。 <ul style="list-style-type: none"> 保護者向けの進路情報に関する講演会等を年度前半に1回実施する。 <p>オ・eコース希望者、40名以上を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> eコース生の教育系大学と国公立大学を併せた進学希望者75%以上をめざす。[60%] 	<p>イ・生徒の「先生の教え方には様々な工夫がなされている」は89%、「授業はわかりやすい」は83%で、80%以上を維持した。授業に関する生徒からの評価は、すべて向上している。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「1人1台端末を効果的に活用している」は、教員のICTの活用力の向上に伴い、87%に大幅に向上した。(◎) <p>(2)</p> <p>ア・授業アンケートの「予習や復習ができてきている」は3.19で、平均値3.0以上を維持した。(○)</p> <p>イ・生徒の少人数展開授業に対するアンケート結果は80.6%であった。(○) [英語92.4%、数学68.9%]</p> <p>ウ・英検準2級以上の合格者は115名であった。(○)</p> <p>エ・進路指導に係る教員研修の実施を、各分野で1回以上実施した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進学実績(国公立大学現役合格5名、関西難関私立大学現役合格65名)であった。(○) 卒業生アンケートによる進路実現の満足度は74.3%であった。(△) <ul style="list-style-type: none"> 保護者向けの進路情報に関する講演会等を年度前半に1回実施した。(○) <p>オ・次年度77期生のeコース希望者、40名以上を確保できた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> eコース生の教育系大学と国公立大学を併せた進学希望者は80%であった。(○)
3 安全で安心な学校生活	<p>(1) 教育相談体制の充実</p> <p>ア・生徒支援委員会を中心とする組織的対応</p> <p>(2) 防災の取組みのさらなる推進</p> <p>ア・実効的な防災訓練</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒支援委員会と保健室、学年、人権教育推進委員会やSC、関係機関との連携をさらに深め、支援を必要とする生徒の把握と組織的な対応を継続する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・実効的な防災訓練をさらに工夫して実施するとともに、災害時の連絡体制の強化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の「担任の先生以外にも悩みを聞いてくれたり相談に応じてくれたりする先生がいる」の項目を65%以上にする。[60%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・災害時の連絡100%の体制を今年度も実現する。「災害時の行動を具体的に知らされている」90%以上を維持する。[93%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の「担任の先生以外にも悩みを聞いてくれたり相談に応じてくれたりする先生がいる」は65%に向上した。引き続き、相談体制の充実を図っていく。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・災害時の連絡100%の体制の実現に近づき、「災害時の行動を具体的に知らされている」は91%であった。次年度は、南海トラフ地震を想定した生徒向けマニュアルも周知徹底していく。(○)</p>
働き方改革の推進	<p>(1) 教職員の専門性の向上</p> <p>ア・最新の教育情報</p>	<p>(1)</p> <p>ア・最新の教育情報を取得し、校内での情報共有と実践研究を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・自己診断「教育の諸問題や最新情報を把握し、資質向上に努めている」は、85%以上を維持する。 [86%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・自己診断「教育の諸問題や最新情報を把握し、資質向上に努めている」は、67%に低下した。これも、観点別学習状況の評価への対応に時間を割いたためと考えられる。(△)</p>

府立河南高等学校

	<p>(2) 「さらに魅力ある河南高校」のための提案型教員集団づくり</p> <p>ア・自己研鑽</p>	<p>(2)</p> <p>ア・人権研修をはじめとした教職員向けの研修を効果的・効率的に実施し、さらに豊かな発想力を身に付け、予測不能な非常事態にも柔軟に対応し乗り越えていける同僚性の高い教職員集団を形成する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・自己診断「様々な研修を通じて研鑽に取り組んでいる。」は、80%以上を維持する。[83%]</p>	<p>(2)</p> <p>ア・自己診断「様々な研修を通じて研鑽に取り組んでいる。」は70%に低下した。これも、観点別学習状況の評価への対応に時間を割いたためと考えられる。(△)</p> <p>ただし、生徒の授業等に対する評価は、すべて向上している。</p>
	<p>(3) 時間外勤務時間の縮減</p>	<p>(3)</p> <p>ア・校務の平準化を図り、時間外勤務時間の縮減と心身の健康の増進を図る。</p>	<p>(3)</p> <p>ア・月当たり一人当たりの平均時間外勤務時間を40時間以内に抑える。[38 時間 00 分]</p>	<p>(3)</p> <p>ア・月当たり一人当たりの平均時間外勤務時間は36時間15分]であった。(○)</p>